

2023年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年8月9日

上場会社名 株式会社 ロブテックス
 コード番号 5969 URL <https://www.lobtex.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 地引 俊為
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員 管理部長 (氏名) 森下 幸治
 四半期報告書提出予定日 2022年8月10日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 072-980-1110

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第1四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	1,427	6.9	146	49.7	155	43.0	91	50.8
2022年3月期第1四半期	1,533	31.9	97		109	1,225.7	60	1,070.2

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 85百万円 (45.5%) 2022年3月期第1四半期 58百万円 (99.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	98.25	
2022年3月期第1四半期	65.16	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第1四半期	8,133	4,482	52.4
2022年3月期	8,307	4,467	51.1

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 4,264百万円 2022年3月期 4,241百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		0.00		60.00	60.00
2023年3月期					
2023年3月期(予想)		0.00		60.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年 3月期の連結業績予想(2022年 4月 1日～2023年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,570	7.7	470	22.5	490	25.1	290	29.0	310.54

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期1Q	1,000,000 株	2022年3月期	1,000,000 株
期末自己株式数	2023年3月期1Q	66,204 株	2022年3月期	66,144 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期1Q	933,816 株	2022年3月期1Q	933,893 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料の3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間の我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、原油や資材価格高騰などの影響もあり、まだまだ不透明な状況で推移しました。

このような状況の下、当社グループでは経営ビジョン「モノづくりのプロにゆえ、モノづくりの楽しさを育む」、経営スローガン「私たちは工具を通じ、あらゆるモノづくりの要求にゆえるとともに、つくる楽しさをゆえ広げる事で社会に貢献します」の発信と浸透を更にゆえ、経営課題である「業務の整流化を徹底し、利益体質の強化をゆえ」をゆえ、経営目標達成に向けゆえ努力してゆえまいりました。

そして、その経営ビジョンをゆえ進めるにあたり、経営課題の解決に向けた機能的な組織ゆえの変更を2022年4月に実施しました。

管理本部においては、ITシステム部を新設いたしました。従来の情報システム部門と営業企画のデータ管理部門並びに業務部を統合し、データ利用・活用、社内プロセス変革、顧客価値創造を重要テーマに、ITを駆使して環境変化ゆえの対応をゆえ進めました。

モノづくり事業本部においては、購買部門を購買部として独立させ、取引先ゆえとの連携強化と新規取引先探索をゆえ行い、安定供給と適正価格及び品質をゆえ確保した調達にゆえ取り組みました。

営業部門(営業企画部・第一営業部・第二営業部)については、売上至上主義から利益確保ゆえへの意識付けをゆえ進め、粗利益・売上比率・販売費を徹底的に管理し、利益追求型の営業部隊ゆえへ移行をゆえ進めました。特にファスナー関連の商品については株式会社ロブテックスファスニングシステムと連携の下、販売強化をゆえ図り、同社の管理、品質、技術部門を当社と連携することで販売拡大に特化・集中できる体制を築き活動してゆえおります。

また、モノづくりの合理化をゆえ図るべく、製造拠点である鳥取ロブスターツール株式会社にはモノづくり合理化推進室を新設し、合理化推進と新規事業の検討をゆえ行いました。

なお、経営課題であります“利益体質の強化”をゆえ図るべく、現状課題については各種プロジェクトをゆえ発足し部門横断的に解決策をゆえ検討、実務部門に展開をゆえ進めました。未来を見据えた目指すべき将来像についても各種会議体にて描くべく活動をゆえ開始しました。

その結果、売上高は前年同期比6.9%減の14億2千7百万円(前年同期15億3千3百万円)となりましたが、利益面では売上原価率の改善及び販売費の効率的な活用により、営業利益では同49.7%増の1億4千6百万円(同9千7百万円)、経常利益では同43.0%増の1億5千5百万円(同1億9百万円)、親会社株主にゆえ帰属する四半期純利益では同50.8%増の9千1百万円(同6千万円)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

①金属製品事業

国内売上は、ファスナー関連の商品において、前年の大型物件分をカバーするだけの販売数量に及ばず、また、ホームセンタールートにおいては一服感があり、減少しました。

一方、海外売上では拡販努力により主要販売先国である韓国向けが伸長し、増加しました。

また、原油や資材価格の高騰などによる商品原価の上昇ゆえへの対応については、生産効率の向上、各種経費の節減実施に加え、価格改定を2022年1月度より実施しました。

その結果、金属製品事業の合計売上高は前年同期比6.9%減の13億5千6百万円(前年同期14億5千7百万円)となりました。利益面については売上原価率の改善及び販売費の効率的な活用により増益となり、同91.2%増の1億7百万円(同5千6百万円)のセグメント利益となりました。

②レジャー事業

ゴルフ練習場における入場者数及びお客様一人当たり売上高は、コロナ禍においても感染対策を講じた上での営業継続に加え、サービス向上や集客施策を実施してきましたが、例年以上の6月度の暑さの影響もあり、前年同期に比べ減少し、売上高は前年同期比7.0%減の7千万円(前年同期7千6百万円)となりました。セグメント利益についても経費節減に努めましたが、減収により、同7.3%減の3千8百万円(同4千1百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は8億1千3百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億7千3百万円減少しました。

(資産)

流動資産は前連結会計年度末比1億5千5百万円減の54億9千7百万円となりました。これは主に棚卸資産が増加する一方で、受取手形及び売掛金や現金及び預金が減少したことによるものです。

固定資産は同1千8百万円減の26億3千6百万円となりました。これは主に繰延税金資産が増加する一方で、減価償却による有形固定資産の減少があったことによるものです。

（負債）

流動負債は前連結会計年度末比3千3百万円減の24億1千7百万円となりました。これは主に未払費用が増加する一方で、未払法人税等や短期借入金が減少したことによるものです。

固定負債は同1億5千5百万円減の12億3千4百万円となりました。これは主に長期借入金が増加したことによるものです。

（純資産）

純資産は前連結会計年度末比1千5百万円増の44億8千2百万円となりました。これは主に配当支出による利益剰余金の減少があり、また、投資有価証券の時価評価に伴うその他有価証券評価差額金の減少がある一方で、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による利益剰余金の増加があったことによるものです。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期業績は、概ね当初に想定した範囲内で推移しており、2022年5月12日に発表いたしました業績予想に変更はありません。

なお、業績予想につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,857,236	2,726,393
受取手形及び売掛金	1,007,125	868,406
電子記録債権	242,563	249,723
商品及び製品	955,200	986,459
仕掛品	298,913	326,215
原材料及び貯蔵品	223,371	261,285
その他	74,001	84,179
貸倒引当金	△5,743	△4,997
流動資産合計	5,652,669	5,497,664
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	829,296	809,709
土地	673,026	673,026
その他(純額)	416,179	403,653
有形固定資産合計	1,918,502	1,886,389
無形固定資産	34,975	31,748
投資その他の資産	701,551	717,902
固定資産合計	2,655,030	2,636,041
資産合計	8,307,699	8,133,706

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	316,932	298,421
短期借入金	1,492,504	1,461,898
1年内償還予定の社債	30,000	30,000
未払法人税等	131,587	69,976
その他	479,558	556,855
流動負債合計	2,450,582	2,417,151
固定負債		
長期借入金	1,173,778	1,028,821
退職給付に係る負債	71,620	74,155
その他	144,578	131,036
固定負債合計	1,389,976	1,234,013
負債合計	3,840,559	3,651,164
純資産の部		
株主資本		
資本金	960,000	960,000
資本剰余金	491,045	491,045
利益剰余金	2,785,243	2,820,959
自己株式	△164,155	△164,274
株主資本合計	4,072,133	4,107,730
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	169,370	156,728
その他の包括利益累計額合計	169,370	156,728
非支配株主持分	225,635	218,082
純資産合計	4,467,139	4,482,541
負債純資産合計	8,307,699	8,133,706

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
売上高	1,533,608	1,427,244
売上原価	1,034,485	906,927
売上総利益	499,122	520,317
販売費及び一般管理費	401,520	374,218
営業利益	97,601	146,099
営業外収益		
受取配当金	5,742	8,487
受取家賃	911	925
為替差益	—	3,618
助成金収入	7,689	—
その他	3,517	2,322
営業外収益合計	17,860	15,354
営業外費用		
支払利息	5,992	5,402
その他	423	159
営業外費用合計	6,415	5,561
経常利益	109,046	155,892
税金等調整前四半期純利益	109,046	155,892
法人税等	35,382	57,239
四半期純利益	73,664	98,652
非支配株主に帰属する四半期純利益	12,808	6,905
親会社株主に帰属する四半期純利益	60,856	91,747

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益	73,664	98,652
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△14,873	△13,099
その他の包括利益合計	△14,873	△13,099
四半期包括利益	58,791	85,552
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	45,912	79,105
非支配株主に係る四半期包括利益	12,878	6,446

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

- I 前第1四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年6月30日）
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	金属製品事業	レジャー事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	1,457,351	76,256	1,533,608	—	1,533,608	1,533,608
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,457,351	76,256	1,533,608	—	1,533,608	1,533,608
セグメント利益	56,438	41,163	97,601	—	97,601	97,601

(注) 1 当社には、報告セグメントに含まれない事業セグメントはありません。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

- II 当第1四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年6月30日）
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	金属製品事業	レジャー事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	1,356,363	70,880	1,427,244	—	1,427,244	1,427,244
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,356,363	70,880	1,427,244	—	1,427,244	1,427,244
セグメント利益	107,929	38,169	146,099	—	146,099	146,099

(注) 1 当社には、報告セグメントに含まれない事業セグメントはありません。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。